

しんぱく びぜん おまち まちざけ  
心白の 備前雄町の 待酒を  
かみ  
醸けむ人と 歌ひ楽しめ

令和六年十二月二日

大中臣正比呂



安政六年（一八五九年）に、ほうきだいせん伯耆大山参拝の帰りに発見されたという酒米「さかまい雄町」は、粒の芯が白い「心白」を持つ好適米だ。

わーっ、かむざけ今年も神酒が来た！

きつと蔵元では、嬉々として酒造りされたのだろう。その様子の  
ほんか本歌は、ほむだわけのみこと品陀和気命の帰郷に待酒を用意した母の息長帯日売命  
まちざけ（神功皇后）が詠まれた歌だ。おきながたらしひめのみこと側近の建内宿禰命が「神様の祝福で

たけうちのみことすから楽しく歌い飲みましょう」と応えたと古事記にある。